

平成 30 年度都市科学部運営諮問会議
平成 30 年度にかかる評価結果

【1】都市科学部における学生の受入れ

1. アドミッションポリシーにもとづいて、適切な学生受入が実施され、入学定員と実入学者数との関係が適切でしょうか？

平均評価： 3	① まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
------------	--------------------------------------

コメント：

- 新入生アンケートやレポート結果から、学生はよく理解して受験したことが分かる。平成 31 年度の受験者の減少が気になるところではある。さらなる情報発信を期待している。
- 私立大学の追加合格の影響もあるとのことですが、横浜国立大学を志望し入学したい、という魅力付けが一層必要であると考えます。
- 若干、入学者数が不安定なことがあるが、やむを得ないと思われる。
- 情報発信に様々取り組んでいるが、入学者数の減少の要因などを分析しさらなる工夫をお願いしたい。

【2】都市科学部における教育

1. 教育方針とカリキュラムポリシーに照らし、都市科学部の特色が反映された教育が行われているでしょうか？

(1) ①グローバルとローカルの接点としての大都市、②リスク共生、③イノベーションを重視した教育が行われているでしょうか。

平均評価： 3.5	① まったく行われていない ②不十分である ③行われている ④非常によく行われている
--------------	--

コメント：

- 「都市科学 ABC」の取組を高く評価する。課題があるとのことだが、さらに充実させていただきたい。
- グローバルとローカルの接点、というアプローチは特に先取性があるテーマであり、都市科学部の特色が反映された教育が行われている。
- 学生の中には戸惑いを持っている者もあり、もう少し努力が必要。
- 非常に幅広い特色ある内容の教育となっている。引き続き内容の充実に取り組んでほしい。

(2) 分野横断型の教育が積極的に推進されているでしょうか。

平均評価： 3. 5	①まったく推進されていない ②不十分である ③推進されている ④非常によく推進されている
----------------------	--

コメント：

- 専門性との兼ね合いが難しいのは理解するが、都市科学部の柱だと思う。期待している。
- 都市科学部3学科間の分野横断型の教育がより推進されることを期待します。
- 学生の中に戸惑いの声もあるが、分野横断型の教育を行うからこそその混沌と考えられる。
- 全学で分野横断的に教育を積極的に推進している。

(3) グローバル人材の育成に積極的に取り組んでいるでしょうか。

平均評価： 3. 5	①まったく取り組んでいない ②不十分である ③取り組んでいる ④非常によく取り組んでいる
----------------------	--

コメント：

- 海外渡航者も増加している。3年になれば更に増えると思う。長期研修もプログラムに組み入れると良いのでは。費用の援助システムを構築したい。また、留学生との交流の活性化も期待している。
- 海外研究スタジオ、海外インターンシップ、国際連携科目などの従来の取り組みに加え、「国際交流WG」での議論を期待します。
- 全学的な取り組みと連携して推進していただきたい。
- 引き続きより多くの学生が海外留学などを経験できるよう支援しグローバル人材を育ててほしい。

(4) かながわ・ヨコハマをフィールドとした実践的な教育に積極的に取り組んでいるでしょうか。

平均評価： 3. 75	①まったく取り組んでいない ②不十分である ③取り組んでいる ④非常によく取り組んでいる
-----------------------	--

コメント：

- 学科によって温度差を感じる。行政との連携強化を期待する。
- 地域課題実習の受講率が高く、弊社沿線（相模鉄道）や弊社の取り組みと連動したテーマでも活動いただいております。感謝申し上げます。引き続き、弊社沿線をフィールドに郊外住宅地の抱える課題に取り組んでいただければ幸いです。
- 学生にも教員の意図が伝わっているように感じられる。

○都市科学部生が地域での実践教育に積極的に参加していることはすばらしい。

【3】その他

1. 教育課程に対応した設備・施設等が十分整備され適切でしょうか？

平均評価： ①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
2. 25

コメント：

- 貴学部が懸命に努力されているのはよく分かる。財政的な支援が必要だと思う。
- 104 スタジオの完成等、実践教育の拠点作りの取り組みが進められている。
- 予算が厳しいことは理解できるが、学生のためにもより充実した環境を整備いただきたい。
- 104 スタジオの新設で拠点ができたことは高く評価したい。

2. 財務基盤は適切でしょうか、また、管理運営体制（事務組織も含む）が適切に整備されているでしょうか？

平均評価： ①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
2. 25

コメント：

- 一学部の取り組みではなく、横浜国立大学として全国にない画期的な取り組みである。財政が厳しいことは理解するが、大学をあげての支援が必要であると考えます。
- 横浜国立大学の代表的部門として、学長戦略経費の活用等、カリキュラムをより充実させる財務基盤の確立を期待します。また、管理運営体制は適切であると考えます。
- まだ、卒業生が出ていない（完成していない）状況で中途半端な予算になっている。
- 大学全体の財政が厳しい中で、新しい発想の資金確保などに知恵を絞っていただきたい。

3. 内部質保証システムに関して体制が整備され、機能しているでしょうか？

平均評価： ①まったく機能していない ②不十分である ③機能している ④非常によく機能している
3. 25

コメント：

- チェック体制がしっかり構築されている。
- 運営諮問会議で議論された内容を引き続き共有いただくとともに、教員アンケート等を通じて、よりコミュニケーションが図られることを期待します。
- システムとしての体制はできている。

○会議体の整理統合等の見直しを不断に行うなど、効率的な運営をお願いしたい。

全体を通して、ご意見・ご提言がございましたら、ご記入をお願い致します。

○学部長様を始め、皆さまがとても真摯に取り組んでいらっしゃいます。とても夢があり、理想的な取り組みですが、今までの実績を超えなくては意味がありません。ここまで順調な滑り出しだと思います。3年目を迎え、更にカリキュラムも施設も充実されることを期待しています。

○「国際性」「実践」「先進（イノベーション）」「開放」といったキーワードは今後の人材育成に不可欠のものであり、都市が抱える課題を学び、中長期的な視野で解決策を考える力を養成することができるカリキュラムを引き続き期待しています。

弊社グループ（相鉄グループ）は鉄道・都市開発等インフラ事業といった側面を多分に有しており、都市科学部で学ぶ知識やコミュニケーション能力が実践できる場面が多く、この面においても都市科学部の学生に期待するものは非常に大きいものであります。

いよいよ、2019年度下期には「羽沢横浜国大駅」が開業となり、都心からのアクセスが大幅に向上されることが見込まれます。今以上に「横浜国立大学」「都市科学部」を志望する学生が増加するよう、魅力の発信を行うことが重要であると考えております。

○立ち上げからここまでご尽力いただきましたこと関わられた教職員の皆様にはご苦労様でした。まず、本学部を立ち上げるというハードルを越えられ、一息つく間も無く、今は軌道に乗せるという次のステージにあると思います。学生はもとより、社会からの期待も高い中、前例のない学部ですので、学生や教員の戸惑いも当然かと思いますが、きっと、我が国の近未来にとって大切な教育が出来る可能性を秘めた学部かと思います。どうか、従来の教育の良いところも活かしながら、一方で従来の教育に囚われること無く、未来を支える人材を育成し送り出してください。本学部の発展を祈念しております。

○新学部設立の理念をあらためて確認、共有して、さらに魅力ある学部にしていただきたい。